

# 電磁波異常のDataと根拠のメカ

- 1 電磁波が地表を伝搬する場合、通過地域の電磁界変化によって影響を受け、また、周辺の瞬間的な電磁変動にも、即応するため受信電界強度がUpDownしたりPulse的に変化してきます。Pulse的な(±)は電磁気の引力や斥力等によるもので、元となる電磁気は逆断層や正断層、即ち地殻の圧縮や伸張とズレ等によって発生したと考えています。
- 2 地震と海洋潮汐や地球潮汐との関係は、電磁的パルスの発生記録から、傾向を検証すると、発生時間は海洋潮汐から約6時間、地球潮汐から約1週間のズレが生じています。
- 3 世界規模で伝搬し地球を周回している短波帯の電磁波は地球規模での大地震や噴火などの前に、その地域から飛来する電磁波のノイズ等が変化している事が判ってきた。そこで地震の予測3原則を研究するための観測を進めている。



# 地殻変動(震源変異)が見える！

## FM放送の直接波観測網(他で)

**発見！** 潮汐の干満とFM電磁気PulseのUpDownが**同期！**

FM電磁波の異常と、潮汐変化の「**関係**」が見つかりました！！  
(FM直接波の電界異常と、潮汐の干満変化)を、照合し検証をしたら「ほぼ<**同期**>」している事が判りました。(下記資料をどうぞ)  
潮汐の大きい荷重変化によって、地殻に異常変動が起これば軋轢  
& 摩擦等で電磁気が発生します。これが地表迄電磁誘導等で伝わる  
と地表電磁界が変動する為、電磁波伝搬にも異常変化が現れます。

(JYAN研究会)地震予知アマチュアネット  
会長 國廣秀光



# なぜ電波観測で判る？

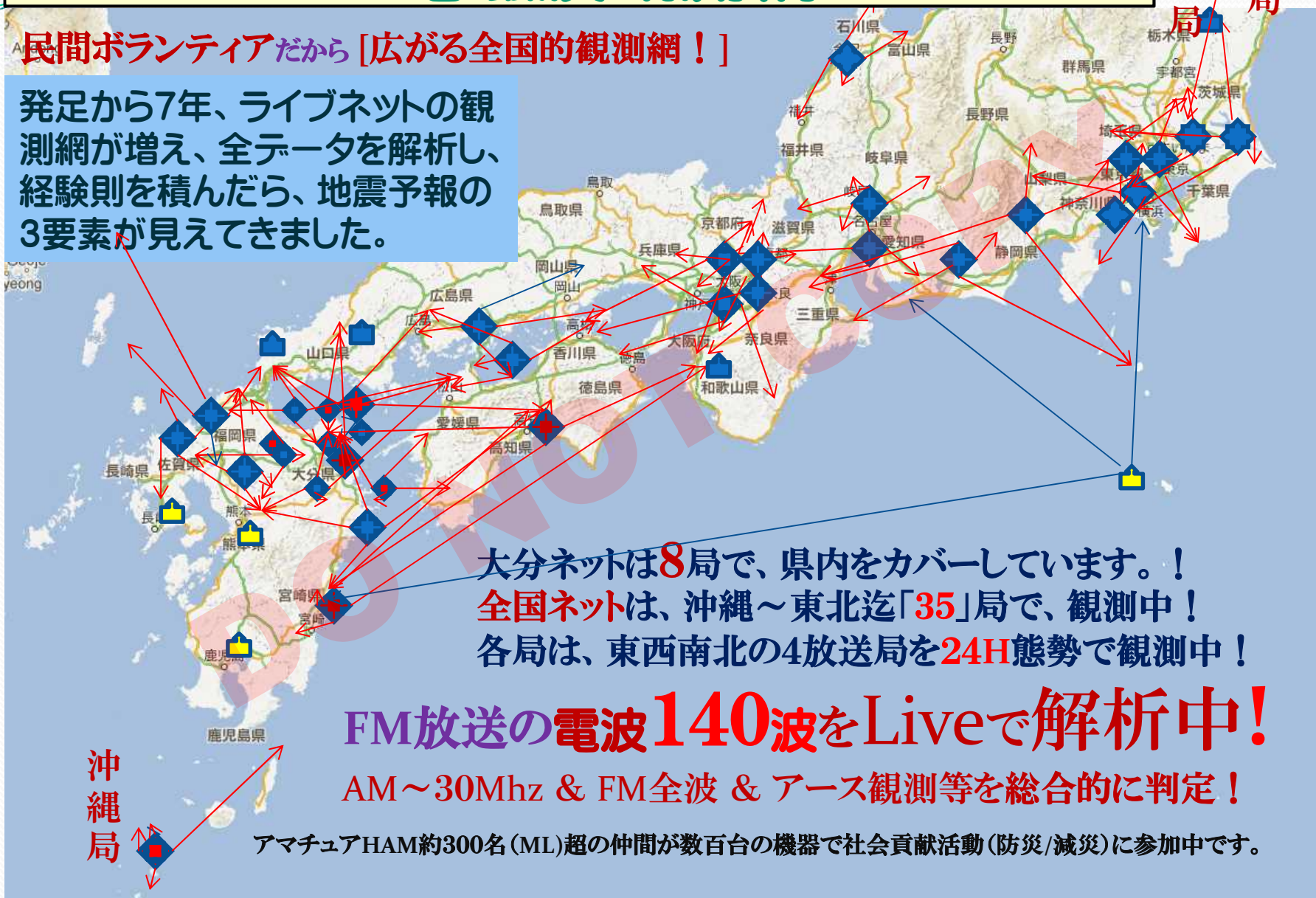
- 1 光が、水槽の水に斜めに入ると、屈折します。電磁波も、「光と同じ性質」があります。(電波ミラージュと同じです。)
- 2 地表には、水槽の水と同様に、電気や磁気の界層があります。(この電磁界中をFM放送の電磁波が横切っている。)
- 3 この電磁界層に、震源域で発生した電磁気が伝わると、地表電磁界は、伝導した電磁気で加減されるのです。
- 4 電磁界層が、伝導した電磁気で変化をすると、通過中の電磁波に揺らぎ(屈折や電磁引力と斥力等)が発生します。
- 5 この揺らぎで(FM電磁波の進行方向や電界強度が変化する)ため、電波観測で地殻変動等が察知できるのです。



# JYAN研究会 電磁波観測網 (2015年4月)

民間ボランティアだから [広がる全国的観測網！]

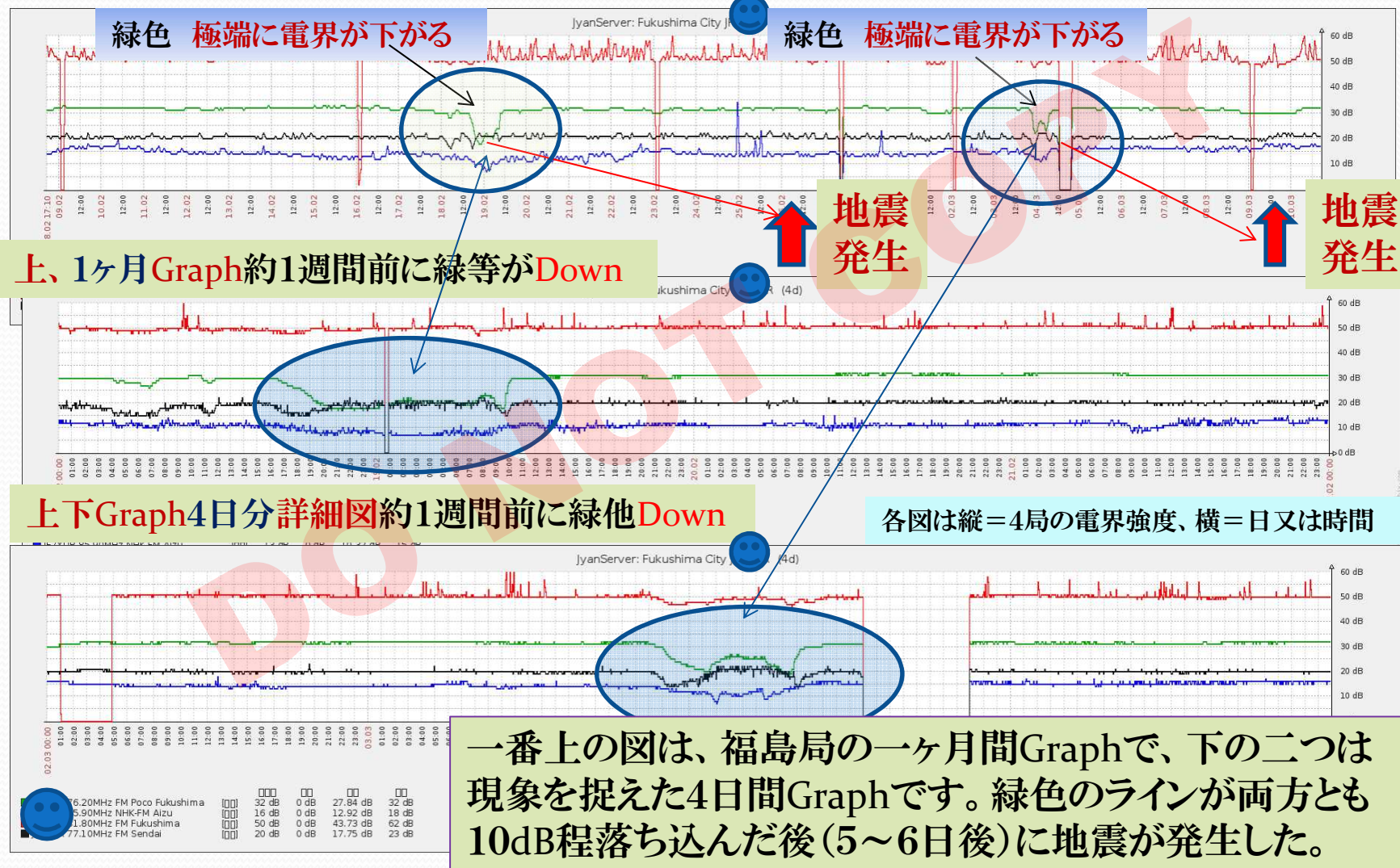
発足から7年、ライブネットの観測網が増え、全データを解析し、経験則を積んだら、地震予報の3要素が見えてきました。





# (一目瞭然！)福島県沖地震の前兆揺らぎ記録

福島局の記録(2015-2-26と2015-3-9) 約1週間後に震度4と震度3の地震発生





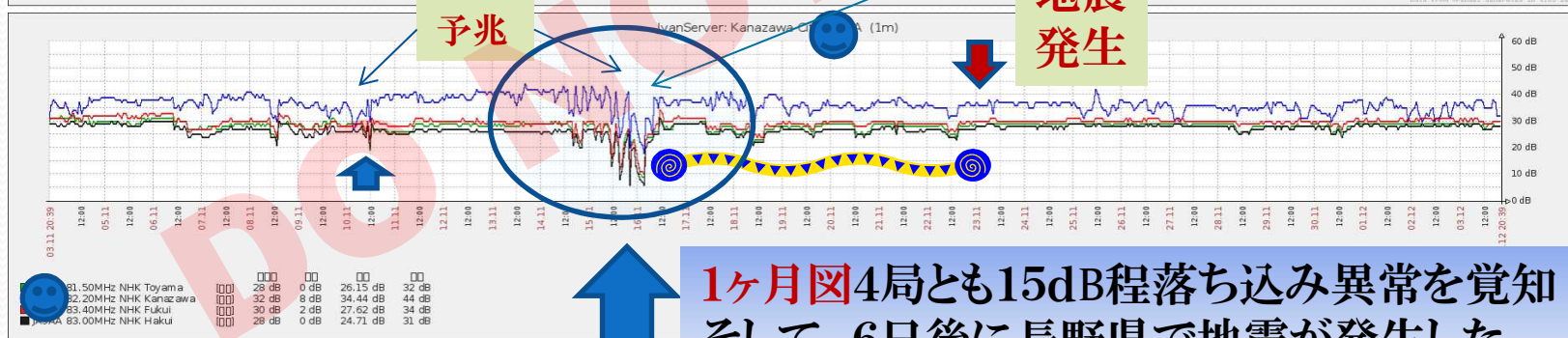
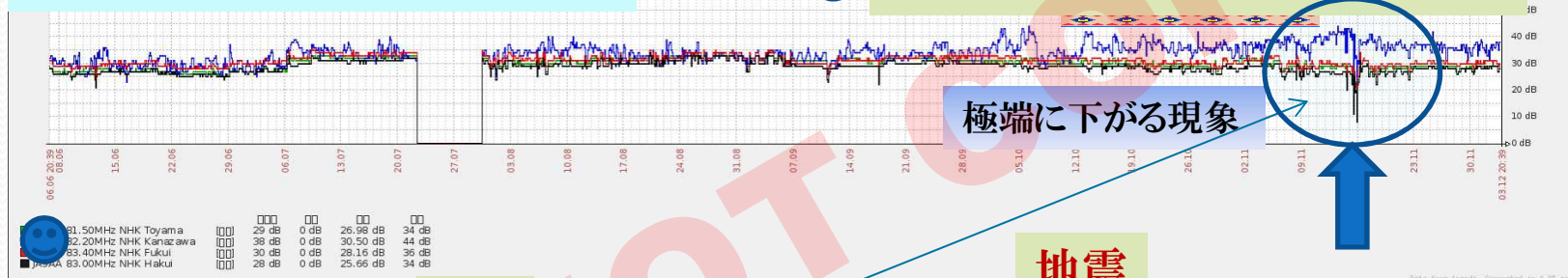
# 長野地震の前兆揺らぎ記録(昨年11月22日)

長野県の隣、金沢市での記録です。11/15～16日2日間  
激しいDOWNがあり、6日後に長野で震度5+の地震があった。

各図は縦=4局の電界強度、横=月日と時間

JyanServer: Kanazawa City

下、半年図約1月前から青上昇



観測局が全国的に広がってきたので、各地の地震で前兆記録が増えている。特に、震度5以上では、約1週間前に明確な前兆が捉えられる事が多くなった。



# (理論) 地表面と上層の電磁界強度

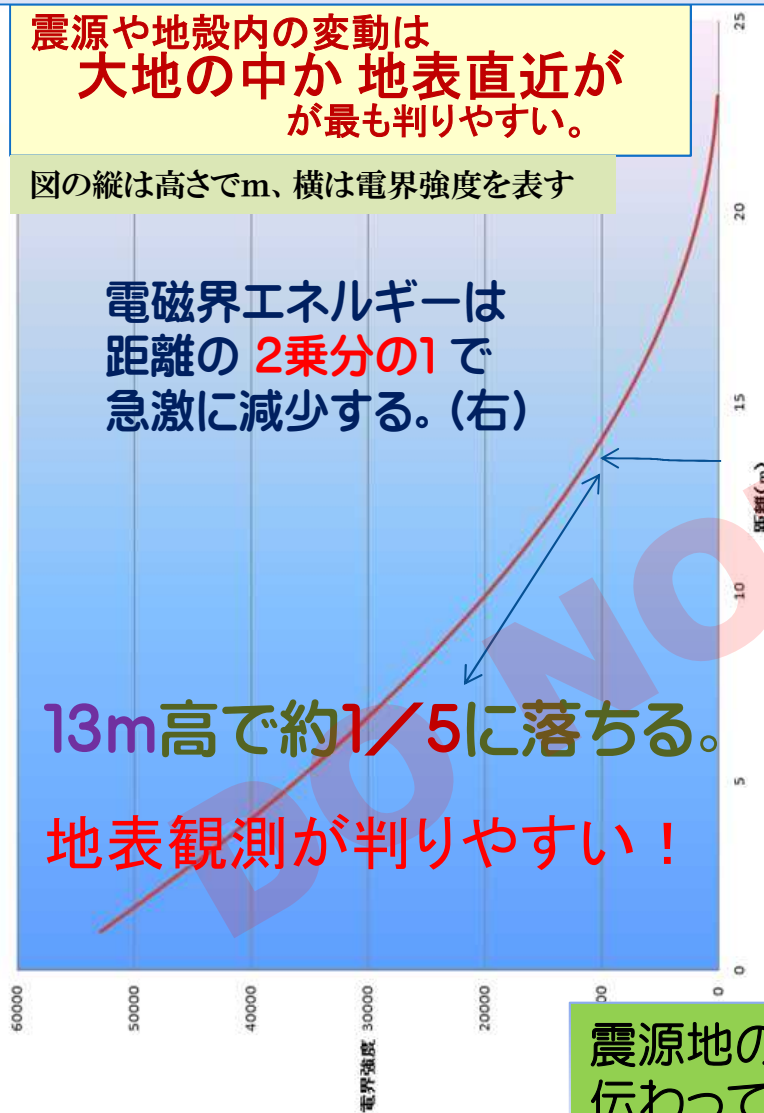
震源や地殻内の変動は  
大地の中か 地表直近が  
最も判りやすい。

図の縦は高さでm、横は電界強度を表す

電磁界エネルギーは  
距離の2乗分の1で  
急激に減少する。(右)

13m高で約1/5に落ちる。

地表観測が判りやすい！



電離層 (D F1 F2層) 約100~300km

スποラディックE層 約80km

電離層 ↑

## 空気層と電離層

上層の縦は地上高でKm(電離層の図)  
下図の縦は空気層でKm(電磁界の図)

空気密度 ↓

地上30km 1/100

空気密度グラフ

地上10k 1/4

地上5k 1/2

地表

雲層

震源地の電磁エネルギーは電磁誘導等で地表まで  
伝わって電磁気層や電磁放射現象の原因となる。



# 曲折理論と メカニズム

震源の軋轢等で発生した、電磁エネルギーは、地表面に伝わると、貯まって電磁界層を形成したり空中へ放射されたりします。

この(電磁界層は)

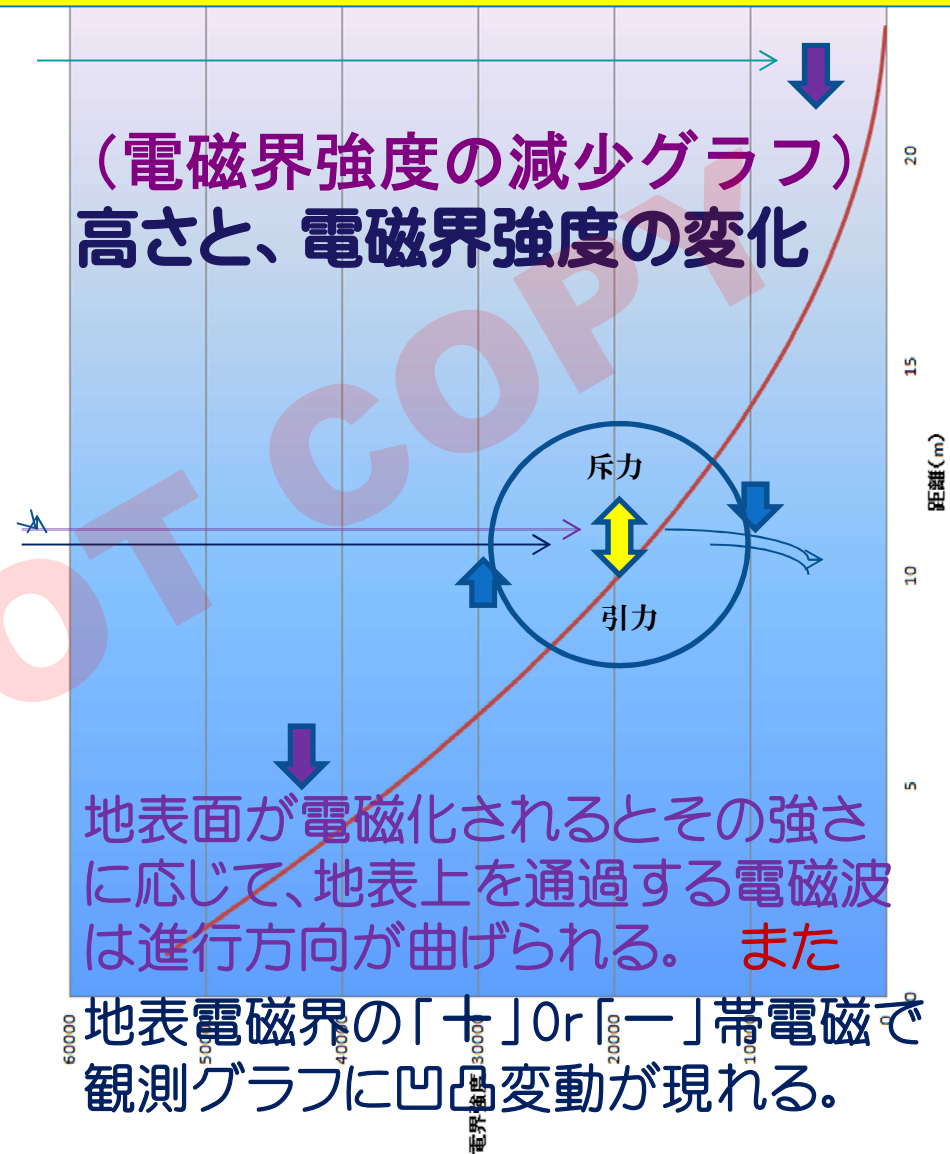
空気コンデンサー模様の界層で、地表では、電磁界の強度が最も強く現れますが、地上高が上がると(約距離の2乗に反比例して)極端に弱くなってしまいます。

これは(連続電磁誘導作用)

電気及び、磁氣的な引力や斥力等の作用によって、影響が最も強い地表では、通過中の電磁波も電磁界変化に応じ、屈折や曲折が起きて、電界強度が変化します。

地上4m = 4万が20m = 2千で約1/20に落ちる

(電磁界強度の減少グラフ)  
高さ、電磁界強度の変化







運河が通ずるまで